



JAPANタクシーのお披露目に、タクシー業界、メーカー、行政のトップが顔をそろえた。右から国交省の奥田哲也自動車局長、豊田社長、石井国交相、川鍋会長、トヨタの佐藤康彦専務役員（23日、東京・台場）

JAPANタクシー発進

トヨタコンフォートから22年

東京五輪のレガシーに

豊田社長

トヨタ自動車は新型タクシー専用車「JAPANタクシー」の発売を23日開始し、東京・台場のメカウェブで出発式を催した。現在の「コンフォート」発売から22年ぶりのフルモデルチェンジ。豊田章男社長は式終了後、報道陣に「街の景色はタクシーがつくる。JPNタクシーは2020年東京五輪・パラリンピックのレガシー（遺産）の一つだ」と強調した。全国ハイヤー・タク

シー連合会の川鍋一朗会長（東京ハイヤー・タクシー協会会長、日本交通会長）ら業界幹部が参加し、石井啓一国土交通相も駆けつけ、華やかに門出を祝った。

▼2面「新・深層底流」で初日の様子など

□ □

セタンからミニバンに大きく様変わりし、ユニバーサルデザイン（UD）仕様に。新開発のLPガスハイブリッドエンジンを搭載、衝突回避支援パッケージを標準装備する。月販目標は1000台。価格（税込み）は上級グレードの「匠」が

349万9200円、標準の「和」が327万7800円。

川鍋会長は「待ちに待った。世界最高の乗務員が乗る、最先端のタクシー専用車ができた。日本のタクシーは世界一と言われるよう、安全・安心、ホスピタリティ、ITなどで新しい公共交通の姿、景色をトヨタとともにつくっていく」と表明した。

東タク協は、3台に1台の割合となる1万台の導入目標を掲げる。豊田社長は「五輪という納期があるのに、東京を起点にスピードアップし、全国展開を」と期待。川鍋会長は「主要都市では五輪前後に3割は入れた」と語った。

石井国交相は「UDタクシーは高齢者、障害のある方だけでなく、一般の利用

者や荷物の多い訪日外国人の方々にも喜ばれる。JPNタクシーが日本の街のアイコンに育つのを期待している」と激励した。

川鍋会長とトーク

出発式では豊田社長と川鍋会長のトークセッションも。昨年6月、トヨタが米国のUber（ウーバー）との協業を決め、全タク連が抗議した一幕を披露。川鍋氏は「当時会長だった富田昌孝名誉会長が「トヨタとは戦争だ。JPNタクシーは1台も買わない」と言った。隣にいてビックリした」と振り返った。

豊田氏は「皆さん、本当に怒っていた。最後は、豊田章男を信頼してほしい」と言ってお許しをもらった。「雨降って地固まる」ではなすが、タクシーとともに歴史を続けられて感謝したいと話した。一方で「タクシーに乗って、最後に止まったときに運賃が上がるのはずいぶんかかります。（乗務員、客のお互いが）ありがとう」と言える環境を五輪までにつくって」と要望した。

川鍋氏が登壇する前に豊田氏は「トヨタにとっても豊田章男にとってもタクシーは大きな存在だ。コンフォートは長年、業界の方々や良い車にしてきた。小学生のとき、タクシードライバーになるのが夢だった」と披露した。「車の数だけ、いろいろな人生、ストーリーを運んでいる。社内で「カー・オブ・ザ・イヤー」の制度を作ったが、最初の（受賞）車はコンフォートだった。それだけ思い入れが強い」と訴えた。

普及の力ギは補助金

28 トヨタJPNタクシー出発

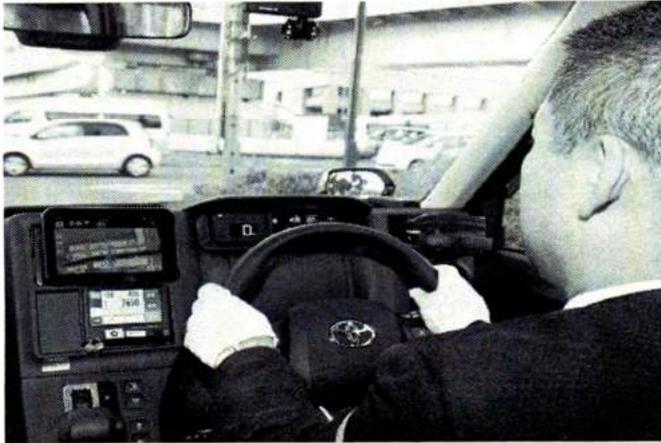


東京・臨海部を走る日本交通のJAPANタクシー (23日)

「ユニバーサルデザイン」園。レインゴアブリッジを(U)車に、流しで普通バックに並だ「JAPPA」に乗れる。長年の夢が実現 Nタクシーを、西目が赤した。全国ハイヤー・タク染めた。標はトヨタ自クシー連合会の川村泰利・ 動車の粥川チーフエンジ技術環境委員長(宮園自動ニア。川村は「一緒に作車社長)が意気揚々と語って来た。請らしい以外た。10月23日午後4時、東の言葉はな」。

京・江東区の豊洲へるり公 構想か6年。粥川氏は

タクシー会社に足を運び、部品を「から確認して、乗務員から聞き取って作り込んだ。「シートは乗り心地と耐久性を両立させるのに苦労した。車内の吊り革は邪魔にならないよう収納」こだわりは尽きない。特に「すべてが重要」と、運転席周りは「子供たちが



新 深層底流

ため、開口部を大きく取ったが、「入らないものがある」「想定より時間がかかる」との指摘が聞かれる。客がタクシーとして認識する不安視している。いろいろな場面でPRしようし、障害者団体に説明した。粥川氏は「足が弱くなり、外出がおっくうになった高齢者にぜひ乗ってほしい。トヨタ初のUDタクシー 移動の喜びを多くの人に感じてもらえれば」と期待すい。車いすも側面から乗る

セタンからの円滑な移行が課題の一つ。ミニバンを客がタクシーとして認識する不安視している。いろいろな場面でPRしようし、障害者団体に説明した。粥川氏は「足が弱くなり、外出がおっくうになった高齢者にぜひ乗ってほしい。トヨタ初のUDタクシー 移動の喜びを多くの人に感じてもらえれば」と期待すい。車いすも側面から乗る

佐藤トヨタ 五輪までに3万3000台



トヨタの佐藤専務役員

東京ハイヤー・タクシー いる。供給体制は万全だ協会(川鍋一朗会長は2と自信を見せる。020年東京五輪までに1 価格が「コンフォート」万台の導入目標を立てたに比べて100万円ほど高が間に合うかどうか。く、「すべてにでも買えトヨタの佐藤専務役員 ない」と、地方・中小の事(国内販売事業本部長)は業者では購入を奨める向き23日の出発式終了後、本紙が少なくない。

「五輪までに3万3000の普及力ギを握るが補助金の助だ。国台は販売できる。全国の販 土交通省やいくかの自治売店を通じ、それぞれの地 体で受けられるが、まだ限域で買い替えをお願いして 定的。佐藤氏は 地方行政



①20代女性ドライバーの池田さん②東京無線とチェッカーの屋上灯



屋上表示灯に独自性

東京のJPNタクシーの統一される。各社・グループ車色は深藍(こいあい)にプが外見上、独自性を発揮できるのは屋上表示灯になる。横長の大さなタイプを採用し、前方に付ける例が目立つ。大手四社(大和、日交、帝都、国際)は現行の球体型を継承。日交は、サービスレベルが高い「黒タク」相当の車に金色を載せる。東京無線はシンボルのタワーを立体的にデザインした。チェッカーは市松模様を入れた楕円型だが、今後、最終決定する。

た。新しいモビリティ

東京モーターショー 未来の公共交通 先取り

東京モーターショー20と、燃料電池（FC）バス67台で、前回より9台減った。17（主催）日本自動車工業会（JAA）が27日、有明の東京ビッグサイトで開幕した。トヨタ自動車は、2020年東京五輪・パラリンピックに向けて相当数の導入が見込まれる新型タクシー専用車「JAPANタクシー」展示する。世界初出展車は、世界10カ国から153の企業・団体が参加し、11月5日まで最新の車両・機器を展示する。世界初出展車は、主要メーカーは電気自動車（EV）、自動運転技術、コネクティッドカー（つながる車）、AI（人工知能）をメインとしたコンセプトカーも発表。ショーテーマは「BEYOND THE MOTOR」(新しいモビリティの価値の拡張)。車が人に寄り添ったり、移動をさらに自由にしたたりする近未来を示した。



東京五輪に向け、相当数の導入が見込まれるトヨタ「JAPANタクシー」(手前)と燃料電池バス「SORA」(25日、東京・有明)

ビッグサイト周辺の「センタープロムナード」(お台場特設会場)「MEGA WEB」で試乗体験が行われ、会場間の輸送を日産自動車「NV200タクシー」とJPNタクシーが担っている。初の試み。シャトルバスも運行する。

▼4面に日産「セレナーPOWER」など、8面にクラウンの新モデル

JPNタクシーで車いす乗降

各地でUD研修

次世代車両体験

千葉運転者登録C
千葉県タクシー運転者登録センター(川島孝之所長)は26日、初のユニバーサルドライバー研修を実施した。既存乗務員38人、新規乗務員1人の計39人が受講した。今年度は月1回、原則最終週の木曜日に開催していく。ユニバーサルデザインタクシー車両を使った車いす演習も行った。

開催にあたり小池満尚副所長があいさつし、「国をあげてユニバーサル社会をつくるなか、タクシーにも活躍する場がある。技術をも身につけて現場で実践してもらうことでタクシー利用に近づけていきたい」と述べ、今後も登録センターとして定期的に開催し、運転者教育機関としての役割を果たす意向を示した。

屋外の演習では段差の移動など車いす介助や点字ブロックを敷いて視覚障害者体験を実施。千葉トヨタがJAPANタクシー、日産がNV200を提供し、小池副所長らが車いすでの乗降を実演した。受講者たちは内装や運転席の感触などを確認し、次世代車



JAPANタクシーで車いすの乗降介助を実演する小池副所長(左)

両に興味を示していた。講義では武藤厚・武藤自動車社長がタクシーが支えるユニバーサル社会、小池副所長が利用者コミュニケーションの留意点について説明。東京歯科大学千葉病院看護士の泉水真由美氏が高齢者・障害者・妊婦の特性と車いすの取り扱いなどを解説した。

千夕協市原は56人受講
千葉県タクシー協会は24日、市原市民会館でUD研修を開き、市原支部(白鳥雅久支部長、所属会社の乗務員ら56人が受講した。開講にあたり白鳥支部長があいさつ。武藤厚・武藤自動車社長、小池満尚・協進交通社長、松丸尚・北柏交通社長がそれぞれ講義を行った。



埼個協が初開催

埼玉県個人タクシー協会(深谷忠男会長)は23日、さいたま市・すこやかプラザで県協会主催で初めてのユニバーサルドライバー(UD)研修を実施し、写真。40人が参加した。

深谷会長は「埼玉の個人タクシーのUD研修修了者は18人と少なく、今すぐにやらねばと思っていた。事業者にも納得し協力してもらい実施できてうれしかった。今後は年1回のペースで実施し、3年で全員が受講できるようにする。各単組からはUD研修を受けていない若い事業者らを中心に参加者を募った。

現在では新規加入者が事前にUD研修も受けた(深谷忠男会長)は23日、さいたま市・すこやかプラザで県協会主催で初めてのユニバーサルドライバー(UD)研修を実施し、写真。40人が修了し、埼玉県では計58人がUD研修を修了した。講師は全福協の松村美枝子氏ほか深谷会長、関東支部の伊藤秀男専務の3人に対応した。

JPNタクに期待込め

本社で出発式 長岡・三越タク2台導入



⑤県内で最も早い導入となった三越タクシートのJPNタクシード周辺機器がすっきり収まった同車の運転席

三越タクシー（新潟県長岡市、野村修士社長・56台）は24日、トヨタのJAPANAタクシィ2台を導入、運

車向の営業開始を祝った。同社は20年前から新卒者採用に取り組み、UDタクシィも日産NV200を5台導入している。

野村社長は「地方でもがんばっている事業者があることを知っていたら、次年度は国のUD車導入助成の拡大をお願いしたい」と話している。

行を開始した。本社で出発式を行い、地元利用者や関係者に車両を披露した。出発式で野村社長は、車両の導入が、来年創業65周年を迎える同社の節目と重要なことや、これからの事業の柱として誇りを持てる職場環境の整備、雇用改善、次世代を担う人材確保につなげたいなどと、期待を示した。

JPNタク導入祝う 岐タ協岐阜支部の3社

出発式



岐阜県タクシー協会岐阜支部（山田健太郎支部長）は27日、岐阜市・みんなの森メディアコスモスでトヨタ

の山田支部長があいさつした。

「支部として、全の方に少しでも外出ができるよう取り組んでいきたい」とあいさつする山田支部長

タJAPANAタクシィ導入の出発式を行った。支部会員の日本タクシィ（山田久典社長）、丸自動車（川上秀人社長）、岐阜名鉄タクシー（福田有男社長）3社が1台ずつ導入した。

来賓として岐阜運輸支局の古屋勝治支局長らも出席、あいさつし利用者利便の向上などに期待を示した。車いす利用者の乗降も実演したあと、関係者がテープカットを行い、車両の導入を祝った。

飯倉タクシー「断腸の思い」ケア料金設定 3台を車いす専用車に

飯倉タクシー（福岡市、加地利幸社長）は10月から0円（税抜）を加算して車いすなどでタクシーを利用する際、ケア料金として

メーター運賃とは別に500円（税抜）を加算して、介護保険の適用事業所としての認定を返上して以降、介

護料金1080円を収受せずに行ってきたが、限界に達したためケア料金の設定に踏み切った。利用者には案内文を送付して理解を求めている。

ケア料金のスタートに伴って、保有していた3台のユニバーサルデザイン（UD）タクシーを一般タクシーの5ナンバーから福祉限定の8ナンバーに変更。車いす専用車にするため、後部の2人掛けの座席を取り外し、8ナンバーにすることを自賠責、任意の両保険料が1台あたり年間30万円節減されるという。

加地社長は「障害者割引も適用される中で、社会貢献の精神でなんとかやってきたが、事業の運用が困難になるところまで来た。断腸の思いでケア料金を設定したが、今以上のサービスを提供してわが社のケアタクシーに乗りしてくれ、人たちに報いたい」と話す。



車いす専用車として座席が取り外されたNV200。ケアドライバーは「座席があったスペースは付添人の手荷物などが置いて便利」と話す

「車両を離れて行う介助などをユニバーサルデザイン（UD）タクシーの乗務員に求めるべきではない」。全国福祉輸送サービス協会（漢二美会長）がそんな見解を示した。飯倉タクシー（福岡市）の加地利幸社長が提起した問題（本紙9月18日付11面・西日本版参照）について、佐藤宏幸専務理事が9月21日付で同社に回答した。10月1日発行の四季報にも同様の見解が掲載されている。

「UDタク車外介助 求めるべきでない」

全福協が加地飯倉タクシー社長に回答

加地社長は8月12日付で「老婆心」と題する書面を全福協に送付。その中で普及が見込まれているJAPANタクシーはNV200に比べて車いす利用者の乗り込みから出発までにかかる時間が約3倍になると指摘。加えて、後部に備え付けのステップを使用し2段にする場合は取り扱いに慣れた者でも10分以上かかる」とメー

カー側から説明があったこのサービスを受けられない可能性があるUDタクシーを憂慮していた。これに対し全福協は「車に介助等をする必要はない」というよりは、求めど記載がないため、公安委員会が発行する「駐車禁止除外指定車標章」が交付されるべきではない」との見解を示した。理由として、従来の予約制の福祉輸送のすべがUDタクシーに取って代わられるとは考えておらず、介助が必要ながそる。

上記記事は東京交通新聞記事10月30日より抜粋

JPNタク	
車いす乗降に要時間	
東タク協 障害者団体へ周知	
東京ハイヤー・タクシー協会(川鍋一朗会長)は1日、市ヶ谷の自動車会館で開いた正副会長・専門委員長会議で、先月発売されたトヨタの新型タクシー専用車「JAPANタクシー(JPN TAXI)」を	障害者団体などに周知していくことを確認した。車いす利用者の乗り降りに10分程度かかり、現場でトラブルが想定されているため、広報、乗務員指導、ケア輸送の3委員会を中心に周知方法を検討する。
	協会事業から切り離す予定のスマートフォン共通配車アプリ「スマホdeタックン」の運営問題では、財産処分をめぐる法的な確認作業を進めていると報告した。

上記記事1点は東京交通新聞記事11月6日より抜粋